

Printed Treasures: Highlights from the Museum of Fine Arts,

# BOSTON



ボストン  
美術館

## 浮世絵名品展

いま、秘宝の扉が開かれた—

会期・会場

2008年1月2日(水)－4月6日(日) 名古屋ポストン美術館

2008年4月15日(火)－5月13日(火) 新潟市美術館

2008年7月12日(土)－8月31日(日) 福岡市美術館

2008年10月7日(火)－11月30日(日) 江戸東京博物館



「浮世絵の特色は板画にあり。」

板画の特色はやさしき色調にあり。」

「しかしてその傑出せる制作品は

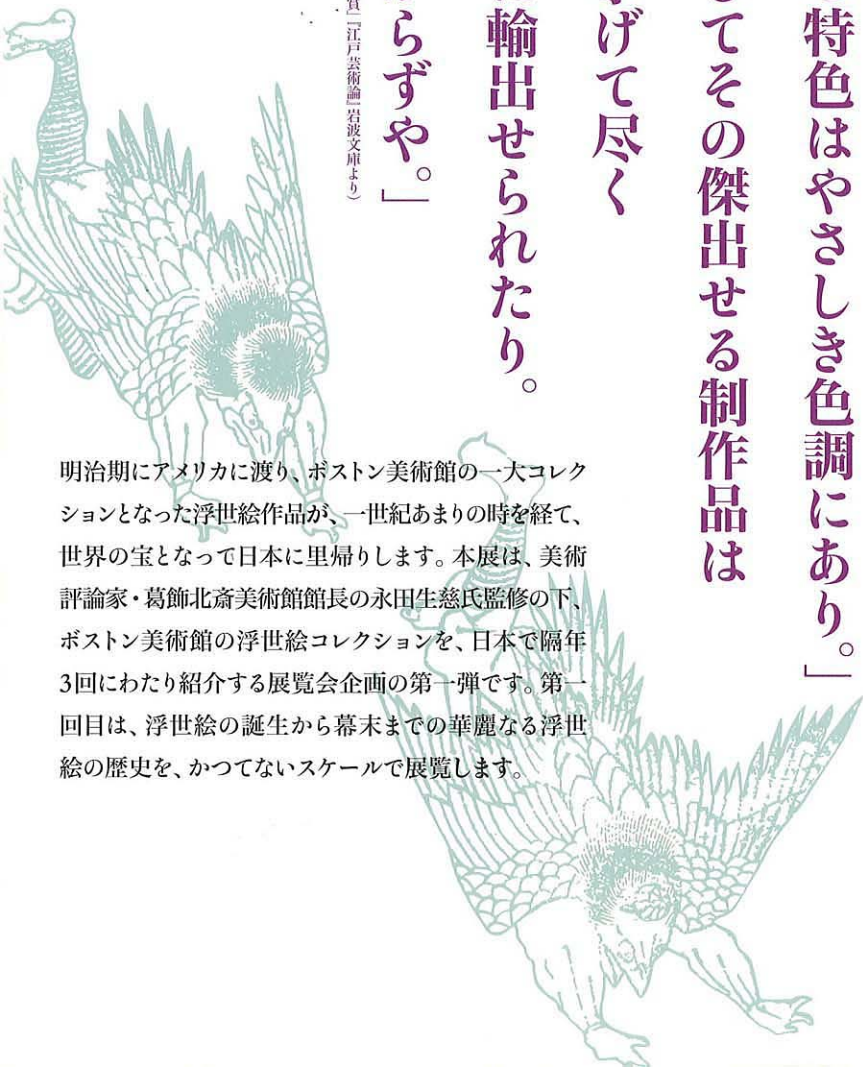
今や挙げて尽く

海外に輸出せられたり。

悲しからずや。」

〔永井荷風「浮世絵の鑑賞」江戸芸術論 岩波文庫より〕

明治期にアメリカに渡り、ボストン美術館の一大コレクションとなった浮世絵作品が、一世紀あまりの時を経て、世界の宝となって日本に里帰りします。本展は、美術評論家・葛飾北斎美術館館長の永田生慈氏監修の下、ボストン美術館の浮世絵コレクションを、日本で隔年3回にわたり紹介する展覧会企画の第一弾です。第一回目は、浮世絵の誕生から幕末までの華麗なる浮世絵の歴史を、かつてないスケールで展覧します。





# 浮世絵初期の大家たち

初期浮世絵版画の時代は、墨一色の墨摺り絵からはじまり、主に酸化鉛である赤色「丹」を用いた筆彩版画の丹絵、植物性の赤色「紅」を用いた紅絵、膠分の多い墨や雲母を効果に用いた漆絵を経て、数色の色板を用いて摺刷される紅摺絵の、およそ1760年代頃までの江戸の浮世絵界を指します。元来、浮世（現実社会）を題材とする世俗画は、16世紀初頭頃から京都を中心に肉筆画で確立されました。それが、1657年（明暦3）に江戸本郷で発生した明暦の大火以後、急速な復興の中で、それまでの上方文化依存から江戸独自の文化が芽生えてゆきます。この頃、「浮世絵の祖」といわれる菱川師宣が登場し、以後、江戸の浮世絵は連綿と華やかな歴史を展開させてゆくのです。



1 初代鳥居清信（生没年不詳）

《二代目藤村半太夫の大磯の虎》

歌舞伎看板の作画を独占した鳥居派の初代清信の画風をうけつぎ、大大判丹絵の見ごたえのある役者絵。



2 二代鳥居清信（1706～63）

《山下亀松の小野の小町と初代荻野伊三郎の般若五郎》

享保18年（1733）中村座「未君伊呂波小町（みくいろはこまち）」に取材したとされる作品。荻野伊三郎は若衆形・若女形として活躍し、後に立役も勤めた。山下亀松は若女形で、女武道役を得意としたといわれる。



3 奥村政信（1686～1764）

《駿河町越後屋呉服店大浮絵》

政信が創案したとされる浮世絵の典型作。西洋の遠近法を応用して越後屋（現・三越）の内部を描いた。奥村屋という版元も兼ね、浮世絵のほかに幅広柱絵など新しいタイプの浮世絵を創案した。



4 鈴木春信 (1725?~70) 《見立三夕 定家 寂蓮 西行》※福岡・東京会場のみに  
本展に出品される。鈴木春信の錦絵以前の貴重な紅摺絵3点のひとつ。保存状態が良好なだけでなく、三丁掛が細版に切られる状態で残っており、他に遺されている例が少ないだけに重要な作品。三美人のポーズがバランスよく配されていることがうかがえる。



5 鈴木春信 《寄菊》

菊の花の色や若いカップルの着物の色を引き立たせるために背景に漆黒の色を使っており、この効果的な意匠は、錦絵の興味深い一形態として、春信の他の多くの作品にも用いられている。



6 磯田湖龍斎 (1735?~?)  
《雛形若菜の初模様 がくはらや内 れん山》

1776年(安永5)頃から1782年(天明2)にかけて連続して出版された、現在120回近くの作品が確認される大判錦絵。正月に遊女が着る衣裳模様の雛形として描かれたもので、遊女を画面に大きくすくえ、美しい着物の柄をよく見せるといふ意図がうかがえる。春信風を残しながらも、体躯のよい現実的な女性美を追求した作品。



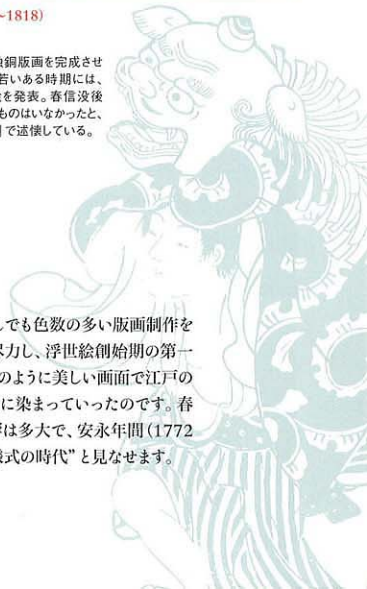
7 司馬江漢 (鈴木春重) (1747~1818)  
《広尾親父茶屋》

江漢は、1783年に日本で初めて腐蝕銅版画を完成させた洋風画家として知られる。しかし、若い時期には、春重と号して春信に酷似した浮世絵を発表。春信没後にはその偽作を制作した者が誰も気付くものはいなかったと、自著『春波筆記』の中の「後傳記」で述べている。



## 春信様式の時代

1765年(明和2)頃には、裕福な好事家の間で絵暦交換会が大流行します。少しでも色数の多い版画制作を目指した結果、豪華な多色刷りの錦絵が完成しました。この錦絵の開発に最も尽力し、浮世絵創始期の第一人者となったのが鈴木春信です。春信の情緒的で楚々とした美人図は、まるで錦のように美しい画面で江戸の人々を驚かせました。その様式は一世を風靡し、江戸の浮世絵界は春信風一色に染まっていったのです。春信の活躍は、その後彼が没する1770年までのわずか4年ほどでしたが、その影響は多大で、安永年間(1772~81)頃まで多くの私淑者が輩出していることから、明和、安永の年代を“春信様式の時代”と見なせます。



# 3

## 錦絵の黄金時代

天明(1781~89)から寛政年間(1789~1802)になると、春信の影響から脱した絵師たちが、個性的な画風を展開しはじめます。役者絵や美人画は大型化し、色彩・構図ともに斬新な作品が生まれ、庶民の人気もさらに高まりました。また、版元にも葛屋重三郎(1750~79)といった傑物が活躍し、新たな絵師の発掘を行うなど、一層の活況を呈します。まさしく錦絵の黄金時代と呼ぶにふさわしいこの時期には、健康美あふれる美人画を書いた鳥居清長、女性の上半身だけ描く大首絵で美人画の一時代を築いた喜多川歌麿、役者絵の代表絵師東洲斎写楽ら、優れた絵師が活躍しました。



8 鳥居清長(1752~1815)  
《日本橋の往来》

初期浮世絵版画の時代から役者絵を伝統とした鳥居派からは、清長が、鳥居家伝統の役者絵ではなく、美人画においてこの時期巷間の人気をさらった。八頭身の健康的でリアルな美人像を描き、大判2枚、3枚を並べて場面を描く続物の発表により、一段と迫力ある女性群像を完成させ、後の浮世絵界に大きな影響を及ぼした。



9 喜多川歌麿(1753?~1806)

《青楼仁和嘉女芸者之部 扇売 団扇売 麦つき》  
吉原で毎年9月に催される吉原催(にわか)に取材したシリーズのひとつ。歌麿は、1792、3年(寛政4、5)頃、それまで役者絵に用いられていた大首絵で、迫力ある艶やかな美人画を描くという画期的な手法で、一躍美人画の第一人者として君臨することとなった。



10 東洲斎写楽(生没年不詳) 《二代目嵐龍藏の金貨石部金吉》

10ヶ月足らずの間に140数点もの作品を発表して、忽然と姿を消した東洲斎写楽。出生も没年もいまって不明ながら、選された数々の役者絵群は江戸浮世絵の傑作として、海外にも衝撃を与えた。この作品は、1794年(寛政6)に版元葛屋重三郎から一挙に出版された写楽のデビュー作28図の一つ、大錦判黒雲母刷りの大首絵。口を一文字に結び、袖を捲り上げて濃む因業な金貨を見事に表現している。



11 歌川国政 (1773?~1810)  
《市川鯉藏の暫》

歌舞伎十八番「暫」の、役者の顔を真横から描いた、斬新で迫力ある構図の大首絵。赤い隈取に市川家の家紋「三掛」が強調されたデザイン性に富んだ迫力ある画面。芝居の筋や役者の演技を知り尽くした国政が、最高の一瞬をとらえた傑作。写楽以後、役者大首絵の天才といわれた国政の非凡な才能がうかがえる。



12 葛飾北斎 (1760~1849)  
《富士三十六景 山下白雨》

代表作「富士三十六景」シリーズの中で、そのスケールの大ききから、また富士山のみを描いた図として、「凱風快晴」「神奈川沖浪裏」とともに三役の一つとされる。天空は雲ひとつない快晴だが、山麓に下ると強烈な稲妻が走る。北斎は、天候をも超越する富士の雄大さをこの一図に存分に収めた。



13 歌川国芳 (1797~1861) 《讃岐院谷風をして為朝をすくふ図》

「武者の国芳」の異名をとる国芳の最も評価の高い武者絵の傑作。それまでの3枚総は一枚ずつ単独でも立ち成り立つように配慮されているのに対し、国芳は3枚総の画面いっぱい一つのモチーフを大きく配置することで、力強く、躍動感に満ちた画面を生み出した。

## 4 幕末のビッグネームたち

江戸時代後期には、美人画や役者絵などの伝統的な主題に加え、風景画や花鳥画の新境地が開かれました。文化年間(1804~18)ごろから明治維新(1868)直前頃までの浮世絵界は、勝川春章門から出た葛飾北斎が、一大画壇を形成し、自らも70年にわたり個性豊かな作画活動を展開しました。一方で、北斎と同時期に幅広い分野に進出し、北斎没後は絶大な勢力をもって浮世絵界を独占したのは歌川派です。風景画の第一人者の歌川広重、役者大首絵の天才といわれた国政、とくに役者絵と美人画に長じ、生涯に成した作品量は随一といわれる国貞、武者絵をはじめ幅広い芸術性がうかがえる国芳など、世界的に著名な絵師たちが活躍しました。

展覧会のみどころ

## 1. ボストン美術館の浮世絵版画コレクションを日本で初めて一挙公開！

ボストン美術館には5万点にのぼる浮世絵版画と、多くの版本・肉筆画が収蔵されています。その質の高さと数量は、世界一の規模と評価されてきましたが、近年までほとんど公開されることがありませんでした。この膨大なコレクションの中から第一級の浮世絵を厳選した本展出品作品は、版画132点、肉筆5点、下絵画種類12点、版本10点で構成され、その大多数が日本初公開です。

## 2. 浮世絵史の教科書ともいえる充実した構成！

本展は、初期浮世絵版画の誕生から幕末までの展開を、主要流派と絵師の作品により通覧できる、まさに浮世絵史の教科書ともいえる構成です。これは、ボストン美術館の各時代を網羅する膨大なコレクションだからこそ実現できたもので、浮世絵を通して江戸文化のダイナミズムを感じていただけることでしょう。

## 3. 華麗なる色彩美を抜群のコンディションで！

これまでほとんど公開されてこなかったボストン美術館秘蔵の浮世絵版画群は、いずれも保存状態良好な作品ばかりです。とくに、ボストン美術館内でもこれまで展示されたことがない、磯田湖龍斎の《雛形若菜の初模様》のシリーズでは、遊女が身にまとう着物の美しい模様が、いま摺り上がったばかりと見紛うほどの鮮やかな色目でお楽しみいただけます。また、二代鳥居清信の5点の漆絵も発売時の雰囲気十分に伝える華麗な逸品です。

## 4. 版本の珍品がずらり！

本展には貴重な版本も出品されます。なかでも、日本の劇書の四大珍書とされる、1700年(元禄13)刊行の鳥居清信『風流四方屏風』、また、喜多川歌麿の『画本虫撰(えほんむしえらみ)』をはじめ、傑出した狂歌絵本として名高い『潮干のつと』『餅調夷(わかえびす)』にも注目です。さらに、版画作品は門外不出とされ、幻のコレクションといわれるスポルディング・コレクションからは、菱川師宣『美人絵つくし』、勝川春章『三十六歌仙』、北尾政演(山東京伝)『吉原傾城 新美人合自筆鏡』\*のハイクオリティな3点の絵本が出品されますのでお見逃しなく！

## ボストン美術館の紹介



15 ボストン美術館



ボストン美術館は、質量ともに日本以外では世界一の日本美術コレクションを持つことで知られています。長年にわたり優れた作品を収集することに力をいれてきましたが、コレクションの独自性はすでに120年前、明治時代に大きく決定づけられました。

19世紀末、明治政府は日本の国際的な地位確立のため、ヨーロッパやアメリカ各地で開催されていた万国博覧会に積極的に参加します。1876年アメリカ建国百周年記念の万博がフィラデルフィアのフェアモント・パークで半年にわたり大々的に開かれますが、そこで日本は初めて、高度な技巧を駆使した工芸品の先進国としてプレゼンテーションを行い、大きな反響を呼びました。ボストン美術館が最初に日本の美術品を購入したのは、この万博でした。

建国百年博は、コレクションの形成に重要な役割を果たす3人のボストン市民—エドワード・シルヴェスター・モース、アーネスト・フランシスコ・フェノロサ、そしてウィリアム・スタージス・ビゲローが初めて日本美術に接する場となりました。一年もたたないうちにモースは日本に旅立ち、1878年にフェノロサ、そして1882年にビゲローがモースに続きます。彼らは日本の社会変革を目にし、自ら文化機関の設立にも参加していきました。明治日本との長く続いた交流と、日本美術を生み出した精神構造への関心が、彼ら独自のコレクション—後のボストン美術館のコレクション—を築いたのでした。

- エドワード・シルヴェスター・モース (1838-1925) 東京帝国大学に動物学の教授として就任。日本の陶磁器の美しさに魅了され、以後これを中心に五千点以上ものコレクションを収集。
- アーネスト・フェノロサ (1853-1908) 東京帝国大学に哲学の講義を行うために招かれる。1890年にボストン美術館初代日本美術部 (現アジア美術部) 長に就任。「平治物語絵巻」をはじめ名品を含む日本絵画など千余点のコレクションを収集。
- ウィリアム・スタージス・ビゲロー (1850-1926) 1890年にボストン美術館理事に就任。来日中収集したコレクションは、様々な流派の絵画、刀剣、刀装具、染織品、漆器、木版画、彫刻などの幅広い分野におよび、その数は約四万点にのぼる。

ボストン美術館のコレクションのなかでも浮世絵はとりわけ有名で、江戸初期から幕末・明治まで五万点もの版画が所蔵されています。その中から優品を精選した本展には、ウィリアム・スタージス・ビゲローのコレクションも数多く含まれています。また、世界的に知られる作品とともに、最近調査が行われ今回日本で初公開となる作品も多数出品されます。



【お問い合わせ】

公式ホームページ：<http://www.ukiyoeten.jp> (12月中旬頃公開予定)

プレスお問い合わせ：

「ボストン美術館 浮世絵名品展」広報事務局 (共同PR株式会社内)

〒104-8158 東京都中央区銀座7-2-22 同和ビル

TEL：03-3571-5258 FAX：03-3574-0316

日本経済新聞社 文化事業部 TEL：03-5255-2852